

文教協会報

No.683

(令和6年5月)

令和6年度 大垣市学校教育指導の方針と重点【概要版】…………… 2
令和5年度 大垣市教育実践研究論文 …………… 3～6



令和6年4月4日（木）転入教職員・新規採用教職員のつどい（大垣市情報工房）

<基本理念>

みんなが学び交わり成長する 文教のまち大垣～次代を拓く「人」づくり～

<基本目標1>

主体的な学びを推進し、確かな学力を身に付けた子どもを育成します

■方針

学力・学習状況を把握する調査を活用し、児童生徒が、課題の解決に向けて主体となって学ぶ授業を充実させていきます。
また、探究的な学びを充実することで、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指していきます。

■重点

- 1 学力・学習状況を把握する調査を活用した指導改善の推進
- 2 課題の解決に向けて、子どもが主体となつて対話的に学ぶ授業の推進
- 3 総合的な学習の時間における探究的な学習の過程の一層の重視
- 4 保幼小連携の推進
- 5 指導力向上のための校内研修の充実

■指標

- 1 授業では友達と相談したり、話し合ったりする機会がある子どもの割合(%) R5:97.4 ➡ R6目標89
- 2 児童生徒の ICT 活用を指導できる教員の割合(%) R5:82.4 ➡ R6目標74

■研究指定

学力向上推進校 R5～6 日新小、荒崎小、星和中
探究的な学び推進校 R6～7 上石津学園、興文中

<基本目標2>

多様な人々との協働を促し、思いやりの心をもち、共に支え合う子どもを育成します

■方針

いじめや不登校などの課題発生後の対応重視に加え、全ての児童生徒の発達を支える側面に着目し、発達支持的生徒指導の充実に取り組みます。

■重点

- 1 全ての児童生徒を対象にした発達支持的生徒指導の充実
- 2 「学校いじめ防止基本方針」に則った対策の推進
- 3 不登校対応の充実
- 4 情報モラル教育の充実
- 5 道徳教育の充実
- 6 人権・同和教育の充実
- 7 児童生徒の自治力が向上する(児童会・生徒会)活動の充実
- 8 交流及び共同学習の推進

■指標

- 1 自分から進んであいざつをしている子どもの割合(%) R5:90 ➡ R6目標90
- 2 いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている子どもの割合(%) R5:98 ➡ R6目標100

■研究指定

社会的自立を支えるスキル育成推進校 R6～7 江並中、西部中

<基本目標3>

グローバルに対応した教育を推進し、ふるさとに愛着と誇りをもつ子どもを育成します

■方針

「ふるさと大垣科」の学習を更に充実させるとともに、多文化共生社会の中で、国際的な視点に立った視野を養い、「グローバル」人材の育成を目指します。

■重点

- 1 「グローバル」人材の育成
- 2 多文化共生社会の実現を目指す教育の推進

GLOCAL

GLOBAL

大垣市小中学校英語教育構想

LOCAL

ふるさと大垣科



■指標

- 1 日本やあなたの住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思っている子どもの割合(%) R5:45.3 ➡ R6目標48
- 2 CEFR の A1レベル相当以上の英語力を有する中学校3年生の割合(%) R5:21.2 ➡ R6目標33

■研究指定

小学校英語教育推進校 R6～7 中川小

<基本目標4>

豊かな学びを支える教育環境を整備し、いきいきと活動できる子どもを育成します

■方針

多様なニーズに応じた教育支援体制を充実させ、豊かな学びを支える教育環境を整備するとともに、健康、安全・安心に児童生徒と教職員がいきいきと活動できる学校を作ります。

■重点

- 1 多様なニーズに応じた教育支援体制の充実
- 2 教職員の働きがいを感じる学校づくりの推進
- 3 健康教育の充実
- 4 体力向上を図る学校体育の取組
- 5 危機管理体制の充実
- 6 地域と学校の協働体制の確立

■指標

- 1 運動やスポーツをすることが好きな子どもの割合(%) R5:56.2 ➡ R6目標60.1
- 2 1校あたりの地域人材を活用した人数(人) R5:201 ➡ R6目標170

研修校 興文小、興文中、東小、東中

令和5年度 大垣市教育実践研究論文

3月14日（木）に、令和5年度大垣市教育実践研究論文賞状伝達・奨励金交付式が行われ、細江教育長から賞状と奨励金が授与されました。

入賞者は次のとおりです。

戸田氏庸賞 10名

優 秀 賞 14名

優 良 賞 36名



<戸田氏庸賞>

学校名 氏名	教科・領域	研究主題
興文小 佐藤 正人	特別支援	交流学級における障がいによる困難の改善・克服を目指した取組を通して、自分に合った方法を見つけ、挑戦できる自立活動 ～児童理解を大切にし、特別支援計画を効果的に活用した自立活動の長期的な指導を通して～
興文小 木下 さおり	学級経営	学級経営 通常学級における個別の支援を要する児童の支援方法・合理的配慮の在り方 ～誰もが自分らしくあるために～
東小 細江 快	若手育成	若手教員がいきいきと教育活動ができる、中堅教員のマネジメントの在り方 ～若手教員の困り感に基づいた個別最適化したOJTを基軸に～
日新小 播磨 聖子	健康安全	自らの健康課題に気付き、よりよい生活習慣づくりに取り組む子の育成 ～睡眠とメディアを中心とした生活習慣指導を通して～
日新小 渡辺 怜奈	音楽科	音楽を心から楽しむことができる児童の育成 ～確かな技能と思考力を身に付ける学習活動を通して～
青墓小 馬場 雄介	保健体育科	「エンジョイスポーツ」を目指した体育科の授業づくり ～「好き」だけでは続かない。進んで体を動かす大人になるために育みたい意識～
江並中 杉野 凌真	理科	主体的な学びを生み出す理科指導 ～学び方に関わる「振り返り」とICTを活用した教材の開発・実践を通して～
西部中 綿貫 優子	教育相談	不登校の初期段階の子どもへの支援のあり方 ～子どものリソースの活用とチーム援助の中核の一員としての保護者との関わりについて～
西部中 杉本 真子	美術科	生徒が「楽しい」と感じる美術科授業実践 ～「できた・わかった」と実感する「つなげる」造形美術教育を目指して～
星和中 加藤 真奈	技術・家庭科	「課題と実践」を通じて資質・能力を向上させる指導の在り方 ～生徒が主体的に課題解決していくための教材準備と提示の工夫～



<優秀賞>

学校名 氏名	教科・領域	研究主題
東小 岩山 明日香	図画工作科	造形的な見方・考え方を働かせて、表現する力を育成する指導法の開発 ～小学校2年生 立体に関する実践を基に～
東小 青木 沙宜子	算数科	事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的に解決することができる指導の在り方 ～問題発見・解決能力の育成を目指して～
西小 森 亮介	社会科	社会科の学習意欲の向上における児童の学習意欲の変化と学習の理解の深化 ～小学校6年生の社会科学学習における一枚ポートフォリオの効果～
北小 鈴木 里菜	社会科	社会的事象を「自分ごと」として考える授業づくり ～主体的・対話的に学び、深く追究する子を目指して～
江東小 中野 祥吉	道徳	互いを認め合い、考えを深めることができる子どもの育成 ～自己を見つめ思いをもち、自分の気持ちを表出できる道徳実践を通して～
小野小 野瀬 敦生	社会科	よりよい社会の実現をめざす児童の育成 ～児童が社会的事象を「自分事」として捉える学習を通して～
墨俣小 残間 拓也	国語科	仲間と伝え合う力を高めることができる子どもが育つ国語科教育 ～主体的に自分の思いや考えを伝えることができる子を目指して～
興文中 伊藤 誓哉	理科	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 ～学習内容を社会や日常生活とつなぐ授業実践を通して～
興文中 伊藤 智晶	英語科	「外国語で表現し伝え合う力」を実感できる授業改善 ～小集団交流を生かした他者との協働的な学びを通して～
東中 大原 拓弥	数学科	「数学が好き」と感じられる生徒の育成 ～自ら学ぶ学習を通して～
東中 太田 勇治	特別支援	自閉症・情緒障がい学級における自立活動の指導の充実 ～保護者と連携を図りながら行うソーシャルスキルの授業実践を通して～
西中 片山 大樹	数学科	批判的考察力の高まりを実感する生徒の育成 ～第2学年「データの比較と箱ひげ図」の授業実践を通して～
江並中 大野 愛奈	保健体育科	「楽しく」運動する中で「わかる・できる」を実感させる授業の実践 ～球技ソフトボール種目を通じて～
西部中 野村 美香	健康安全	睡眠とメンタルヘルスの関係性を知り、主体的に健康な体をつくることを意識した生活を送ることができる生徒の育成 ～知識から実践につなげる睡眠指導～



<優良賞>

学校名 氏名	教科・領域	研究主題
西小 藤澤 未有	国語科	物語の読みを深め豊かな感想を書く力をつける ～国語科「読むこと」の授業実践～
西小 田中 楨	算数科	主体的に学習に取り組み、粘り強く考える力を育む児童の育成 ～ICTを活用した数学的活動のあり方～
南小 浦田 祐成	特別支援	自立や社会参加に必要な力を育むスポーツ経験を取り入れた生活単元学習
北小 宮部 正大	特別支援	A児が自信をもち、交流学級で生き生きと活動できる姿を目指して
北小 河村 淳之介	算数科	自分の言葉で人に伝える愉しさを実感できる児童の育成 ～算数授業において既習事項を大切にした新たな学びを通して～
安井小 市川 茉歩	算数科	論理的に思考する子を育てる算数科の授業の在り方 ～導入と個人追究後の「比較」とICTを活用した交流を通して～
宇留生小 玉木 志歩	道徳	仲間と対話的に学び合うためのICT機器の活用について ～自分の考えを表現できる子どもの育成を目指して～
宇留生小 広野 慧	算数科	算数科を通じた児童の育成 ～「できた、わかった」の実感を目指して～
静里小 川島 大輝	保健体育科	生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する児童の育成 ～走り高跳びの授業実践より～
綾里小 岩井 咲菜	算数科	算数指導における「主体的・対話的で深い学び」の実現 ～ICTを活用した実践を通して～
中川小 服部 美和	図画工作科	図画工作科「つながり」を生かし、資質・能力を育む造形美術教育 ～一人一人につくる喜びを～
中川小 村木 玲於	外国語活動	教科書がもつメッセージを読み解く教材研究 ～世界的諸問題を自分ごとと考える授業～
小野小 梶本 彩奈	特別支援	「できた」「わかった」が実感できる生活単元学習 ～主体的に取り組み、学習した知識・技能の習得につなげる～
小野小 松下 萌	外国語活動	児童が「考えながら聞き、考えながら話す」ことができる単元構成 や活動内容の工夫
小野小 加藤 万穂	社会科	地域社会の一員感がもてる社会科学習 ～地域社会との関わりを感じる学びの土台づくりと選択・判断して いく力の育成～
荒崎小 高畑 育実	特別活動	自己有用感を向上させる異学年交流の在り方 ～よさみつけとふりかえりの効果的な活用について～
赤坂小 浅野 萌花	算数科	『算数を楽しく学び、学ぶ意欲を高める』ための教師の働きかけ ～仲間と学びを深め、楽しく学ぶ授業づくり～
赤坂小 堂山 達也	社会科	児童が社会的事象を「自分のこと」と捉え、主体的に学びにむかう 授業づくりについて
青墓小 中塚 巧	理科	見通しをもち進んで課題解決に取り組む児童の育成 ～どの児童も理科の学習が分かる、見通しのある授業の流れを目指 して～
青墓小 木村 健太	保健体育科	運動が苦手な児童でも「できた」「もっと運動したい」と味わえる 体育授業の創造 ～ネット型ボール運動（バレーボール）を通して～
牧田小 岡本 夏奈	生活科	自分の考えを仲間に伝えることのできる子が育つ指導の実践 ～生活科保小交流を核とした・話し合い活動を通して～
多良小 西川 恵	ふるさと 大垣科	俳句作りを通して「表現」することを楽しむ児童の育成 ～継続してICTを活用したふるさと大垣科での俳句作り～

<優良賞>

学校名 氏名	教科・領域	研究主題
墨俣小 藤澤 麻衣子	保健安全	自ら進んで歯と口の健康を守ろうとする児童の育成 ～児童の主体性を育む歯科指導の工夫～
興文中 伊藤 由香	技術・家庭科	自分の生活の中から課題を見だし、解決策を構想することを通して、より豊かな生活を目指す生徒の育成
東中 神谷 実紅	美術科	「自己を見つめ、主題を生み出し、豊かに発想し構想を練ることのできる生徒の育成」 ～美術「今を生きる自分へ」の実践を通して～
東中 安藤 晴花	社会科	多面的・多角的な思考を働かせ、自分の意見を構成できる生徒の育成 ～発問や資料の工夫、単元指導計画の工夫に着目した社会科の授業を通して～
南中 藤原 光里	美術科	生徒一人一人が主体的・対話的に学ぶ美術科学習 ～ICTを活用した授業実践を通して～
南中 早瀬 将也	社会科	主体的に社会の形成に参画する生徒を育てる社会科学習 ～ICTを活用した協働的に、選択・判断する授業の実践を通して～
北中 田中 瑞奈	国語科	日常生活に生きる「話すこと・聞くこと」の授業づくり ～学びを深めるためのICT活用を通して～
北中 小川 恭平	理科	自らの課題解決に向かい追究する生徒の育成
江並中 泉 洋喜	社会科	確かな学力を身につける社会科学習 ～主体的・対話的で深い学びを生み出す教科指導～
赤坂中 川島 菜摘	英語科	日常的な場面で生きる英語力の育成 ～目的・場面・状況を表す表現を多用し、「話すこと やり取り」の能力を高める授業実践～
赤坂中 小椋 瑤子	数学科	知識及び技能を思考力・判断力・表現力等に生かすことができる生徒の育成 ～ICTを活用した言語活動 を通して～
西部中 中島 崇晴	社会科	将来、社会の授業が役に立つと思える生徒の育成 ～ICTの効果的な活用と社会的なものの見方・考え方を働かせる指導を通して～
西部中 小木曾 大樹	保健体育科	「できた・分かった」と実感する生徒の育成 ～仲間と共に学び合い、個人や集団で成長するための実践を通して～
西部中 高江 啓祐	国語科	紙の書籍と電子書籍の共存を目指した読書指導の改善 ～全ての生徒が本を手取る充実した読書活動を目指して～

文教会報の紙媒体での発行は、本刊で最後です。

今後は、大垣市文教協会のホームページ上に掲載しますので、各自ご確認をお願いいたします。

文教会報は、毎年4回発行しています（次回 7月頃 発行予定）。

<https://www.nisimino.com/bunkyo/kaihou.html>